

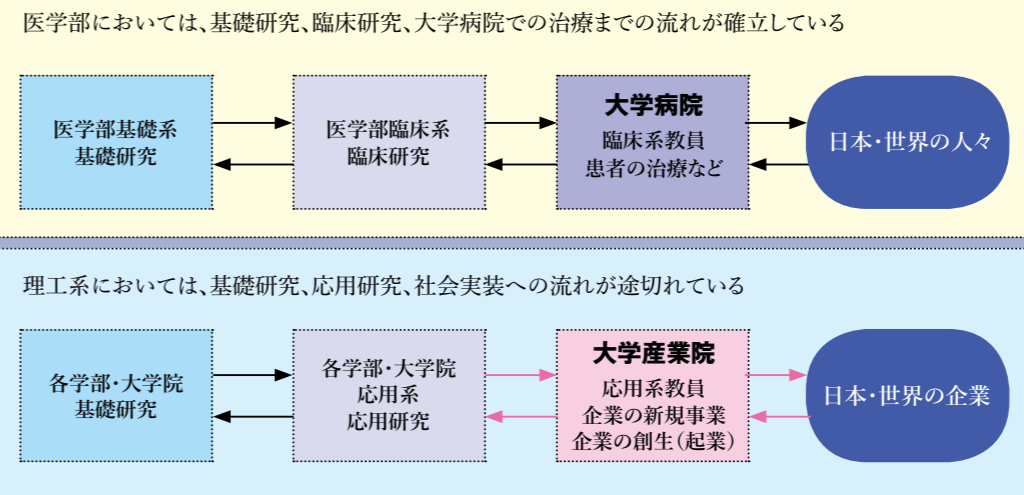
# 徳島大学産業院スタート 新しい産学連携の在り方

徳島大学の社会貢献に関する理念は、「産官学の組織と連携し、社会の発展基盤を支える拠点となり、大学の開放と社会人の学び直しを支援し、地域社会に新産業を創出することに貢献する。」です。この理念を実現するために、特に、「地域社会に新産業を創出すること」を主な目標とした組織として、平成30年4月に徳島大学産業院は設立しました。

そのモデルは実は学内にあり、それは大学病院でした。下の図で示すように、医学部・関連大学院においては、医学などに関する研究が実施され、その成果が大学病院において実際に病気に生かされています。一方、他の学部・大学院には相当の組織がありません。そこで、研究の成果を効率的に社会実装につなげる体制を構築するために、産業院 (Industry-University R&D Startup Leading Institute(Industrial)) という組織を考えました。

## 大学産業院の概念

大学病院において、医学研究が実用化され、患者を治療。  
大学産業院において、様々な研究が実用化され、企業を創生。



- 企業からの新規事業の開発委託などにより、最適のチームで組織的に対応。
- 起業支援の専門チームが、スタートアップを創生(スタートアップ スタジオ)。
- 企業・自治体などが大学産業院に研究室を設置可能。
- 大学において審査後、企業の出向者に、産業院教授・准教授などの称号を付与。
- 産業院教員は、教育・研究・企業活動をおこなう。
- 学生・院生は、産業院にて講義・研修を受け、研究を行う。

# 徳島大学の 産学連携



# 徳島大学産業院が目指すもの

徳島大学産業院長 森松文毅 (もりまつ ふみき)



徳島大学産業院では、企業の再生、企業内新規事業、企業創生などを実施し、その成果の対価を得て、更に研究に還元するシステムを実現したいと考えています。研究成果で産業が活発になれば、地域も活性化するということは、徳島にある様々な企業の活躍を見ても明らかです。

大学のミッションは、社会・地域の発展への貢献と世界レベルの研究を維持することにあります。大学が企業と密接に連携し、早急に研究成果を社会に還元するためには、個人レベルの連携ではなく、組織的に大学管理下で共同研究等を実施することが必要となります。

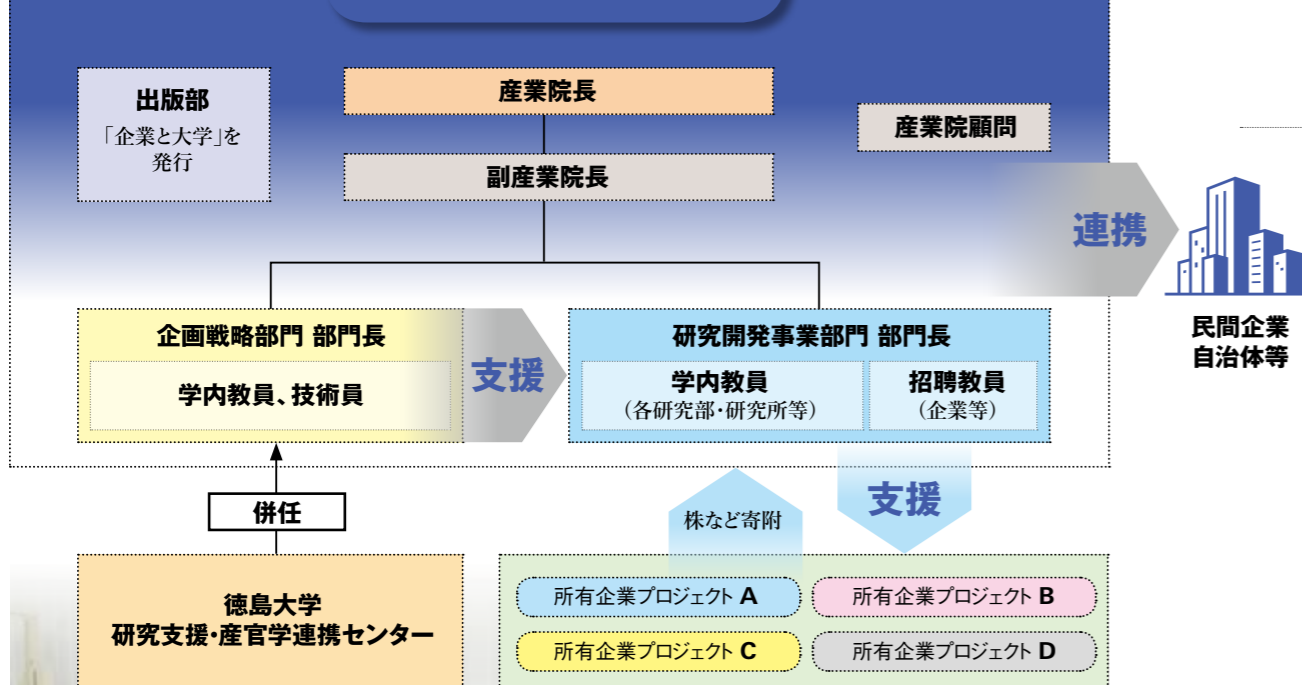
徳島大学産業院では、社会、企業とWin-Winの連携をもって、成果の商品化や競争的資金の獲得に取り組みと共に、大学が間接的に所有する企業を設立し、収益を伴う大学の事業(※1)などを企業の方々と共に推進するなどの新たな取り組みを生み出していきたいと考えています。

また、学生にも共同研究等で連携する企業へのインターンシップや企業経営、起業支援に精通した外部講師によるアントレプレナーシップ教育も今後検討しており、産業創出に貢献する人材の育成も行います。

\*収益を伴う大学の事業とは、国立大学法人法第22条第1項各号に規定される業務を行う中で、結果として収益を伴うこととなる事業をいいます。



## 産業院の体制図



# これまでの産学連携体制との比較

## 通常の産学連携体制

- 企業との共同研究実施の際、教員個人が研究を実施
- 産学連携、ベンチャー起業の相談に対応、大学からの組織的支援は無い
- 数百人の教員に対し、個々に知財対応や法務対応。コーディネーター教員は数名
- 数百人の教員に対して、POC(\*2)経費支援

(\*2) POCとは(proof of concept)の略称で、「概念実証」や「コンセプト実証」の意味。各分野の研究開発やビジネスなどにおいて、新たな発見や概念について実現できるかどうかを実証すること。

## 産業院として

- 企業との組織的共同研究実施の際、コーディネーターを介す等、組織として研究を実施
- 産業院が、組織として提案するスタートアップ・スタジオの充実による研究成果の社会実装の促進
- 収益を伴う大学の事業、産学連携、大学ベンチャーの起業を協働で行う
- 収益を伴う大学の事業や企業を組織として設置・運営
- 産業院に所属する教員に対応する専属のコーディネーター教員(設立時:2名)によるきめ細かい対応
- 産業院をモデルとして、文科省の「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」の導入、兼業制度の見直し等を行い、全学に拡大

# 研究成果の事業化、社会実装化を目指す 研究開発事業部門の 教員



教授  
**出口 祥啓**  
(でぐち よしひろ)

徳島大学  
大学院社会産業理工学  
研究部 理工学域  
●研究分野:  
工学、電気電子、機械  
工業応用展開を可能とする  
最先端レーザ応用計測技  
術装置の開発



教授  
**宇都 義浩**  
(うと よしひろ)

徳島大学  
大学院社会産業理工学  
研究部 生物資源産業学域  
●研究分野:  
生物有機化学  
発育鶏卵を用いた癌の創薬  
研究と治療剤/サプリメント  
の開発



教授  
**梶 龍兒**  
(かじり りゅうじ)

徳島大学  
大学院医歯薬学研究所  
医学域  
●研究分野:  
脳神経内科学、臨床創薬、  
神経リハビリテーション  
超高齢化社会での神経疾  
患による社会的負担に対す  
るソリューション



教授  
**石田 竜弘**  
(いしだ たつひろ)

徳島大学  
大学院医歯薬学研究所  
薬学域  
●研究分野:  
薬理学、薬物動態学、  
DDS  
創剤(ソボーム化)による  
新薬の開発



徳島大学では、国内で初めての取り組みとして、大学内特区として産業院を位置づけています。

### 1 大学内特区的 としての産業院

- 「組織」対「組織」の本格的な産学連携を推進、事業化・産業化の課題を優先的に対応
- 既存の大学教員採用基準に捕らわれない、連携組織の構築(企業の方に、産業院招聘教授等の称号付与と教員としての活動支援)
- 学生・院生は、産業院にて講義・研修を受け、研究を行う

### 2 スタートアップ・ スタジオの設置

- 起業支援の専門チームが、スタートアップを創生(スタートアップ スタジオ)
- 産学連携コーディネーターにより、特許戦略やマーケティングを集中支援するチームを設置

### 3 組織による 企業支援

- すでに連携している共同研究相手企業との連携強化、収益を伴う大学の事業の展開(研究室設置など)
- 企業からの新規事業などの開発委託などにより、最適のチームで組織的に対応。
- 企業・自治体などが大学産業院に研究室を設置可能



# 大学内特区としての 産業院

## vision スタートアップ・スタジオの設置

大学産業院において、研究成果やニーズに基づくスタートアップを創生するために、新たにスタートアップ・スタジオを設置します。スタートアップ・スタジオは、「商品の考案、事業設計、資金調達、人材調達、マーケティングまで、起業を全面的に支援する」組織です。スタジオ自体が新しい商品を次々に生み出し、事業

化し、会社化していく組織です。大学発のスタートアップの場合、研究者は経営などには知識も経験もなく、研究者が起業するのは非常にハードルが高いため、研究以外のことを総てサポートするチームが必要です。そのコアチームのメンバーは、広い視野を持つ専門家、例えば…

ビジネス開発・ソフトに関するエンジニアリング…ハードウェアに関するエンジニアリング…プロダクトデザイン(UI/UXのデザイン)…PR、マーケティング…人材獲得のためのリクルーティング…ファイナンス…法務、により構成されます。スタジオでは、ビジネスを「考案」し、「開発」し、「販売」する組織として運営されます。これにより、スタジオの全面サポートの下に事業が推進されることで、スタートアップの成功率を高めることができます。

## report 徳島大学産業院キックオフシンポジウムの開催

平成30年8月27日(月)、徳島市内のホテルにて「徳島大学産業院キックオフシンポジウム」を開催しました。シンポジウムでは、野地学長より挨拶と産業院の構想についての説明があり、参加者に徳島大学との連携を呼びかけました。また産業院の井内健介副院長からは、「産業院の取組紹介」、産業院の顧問で、日本ハム株式会社取締役専務執行役員の大社啓二氏からは、「スポーツ経営、食とスポーツによる挑戦的ビジネスの可能性」、産業院の宇都義浩教授からは、「中小企業と地方大学の産

学連携によるイノベーションの創生」、一般社団法人徳島ニュービジネス協議会会長の三木康弘氏からは、「産業院と徳島ニュービジネス協議会との連携」について、それぞれ講演が行われました。企業関係者、行政関係者、大学関係者など149名の参加があり、大学の研究成果を迅速に事業化・産業化するためには組織的な連携が必要不可欠であるとの意識を共有することができました。また、シンポジウム終了後の懇親会では、活発な情報交換が行われるとともに、宇都義浩教授の研



究成果である阿波藍を用いた水性藍色素「ジャパンプルー」を活用した料理が振る舞われ、参加者にたいへん好評でした。